

# 幸手市地域公共交通計画策定に係る 市民アンケート結果等(要点)



## 市民へのアンケートより (資料 2 - 2)

### (運転免許に対する意識)

- 免許の返納については**考えていない人が大半**です。

### (外出状況、外出手段)

- 通勤・通学**のほか、**買い物**（ヤオコー、ベルク、ヨークフーズ、マルエツ、ジョイフル本田等）や**通院**（東埼玉総合病院やクリニック）に出かける人が多くなっています。
- 外出手段は、**自動車（自分で運転、家族等の送迎）**がきわめて多くなっています。**鉄道、自転車**も一定の利用があります。
- 市内循環バス**は、利用していない人がほとんどであり、**きまった人がよく利用している**状況です。
- 利用しない人は、「**自動車等の手段がある**」との理由が多数です。
- 「**運行本数**」のほか、「**乗り換え**」の不満が多くなっています。また「**反対回り**」を希望する意見も多く得られています。

### (今後に向けた考え方)

- 現在のところ移動手段に**困ることのない人が大半**です。困った際には**タクシー、送迎等**で対処されています。
- ただし**今後充実してほしい公共交通**として、**市内循環バス、路線バス**が挙げられています。
- 市の財政負担は現状のままで公共交通を維持すべき**との意見が多数となっています。一方、**公共交通を現状よりも充実すべき**との意見も多数となっています。
- 充実すべき内容としては、**交通弱者の移動手段を確保すべき**との意見が大半を占めています。

## 民生委員・児童委員へのアンケートより (資料 2 - 5 P7～)

- 買い物、通院で相談されることがあり、そのような相談者は、**ふだん自動車（自分で運転、家族等の送迎）、徒歩、自転車を使っている人**が多いものとみられます。
- そのような人は、いつも困っているのではなく、**ときどき困ることがある**状況です。その場合、**家族・友人・知人の送迎、タクシー等**で対処しているものとみられます。
- そのように困っている人のために充実したほうがよいものについて、**委員の意見**としては、個別の送迎である**福祉タクシー**と、公共交通である**市内循環バス**が多く挙げられています。

## 市内循環バス乗降客調査（OD調査）より（資料2-3）

- 経費に対して収入が大きく不足している状況です。
- 特に、東コース、西コースの利用客数はきわめて少なく、夕方等には利用がない便もあります。
- 別のコースに乗り継ぎ可能な幸手市役所や、鉄道に乗り継ぐための幸手駅の乗降客が多くなっています。その他には利用客が集中するようなバス停はありません（年間の利用実績をみると、頻繁には利用されていないが、時々利用されるようなバス停が多く見受けられます）。
- 市内循環バスは、平日の利用は高齢者が多く、休日には30～60代にも多く利用されています。
- 他の交通機関と乗り継ぎ等をせず、徒歩圏で利用する人が多くを占めています。ただし、鉄道との乗り継ぎのほか、幸手市役所等でバスとバスを乗り継ぐ人もあります。

## 鉄道（幸手駅）利用客へのアンケートより（資料2-4）

- 今回の調査における幸手駅の鉄道利用客は、10代・20代の若者が多数を占めました。
- 平日は通勤・通学が多く、休日は趣味・遊び・習い事等が多くなっています。東武沿線（県内）へ出かける人が多数を占めますが、休日は東京都内へ行く人のほか、本市へ来訪する人が増える傾向があります。
- 幸手駅で、鉄道と他の交通手段を乗り継ぐ人は少なく、徒歩・自転車で駅へアクセスする人が大半です。
- 鉄道に望まれることについて、特にない（今のままでいい）との意見が多数です。次いで、昼間の便を増やす、待ち時間を快適に過ごせるようにするとの意見が多くなっています。記述のあった中では、駅の構内や駅前（特に西口）に店舗・自販機等がほしい、もっとエアコンを効かせてほしいとの声が多数得られました。

## 市内循環バス利用客へのアンケートより（資料2-5 P1～）

- 通院、買い物での利用が多数を占めています。（行先は、店舗、病院、市役所やウェルス等）
- 週に1～2日利用する人が最も多くなっていますが、中にはほぼ毎日利用している人もおられます。
- 困り事は停留所が遠い、乗り換え方法がわかりにくい、時刻表がわかりにくいの順で多く挙げられています。
- 市内循環バスに望まれることについて、運行本数に次いで、反対まわりの便が多数となっています。

## 免許返納者へのアンケートより（資料2-5 P4～）

- 自動車がないことに不安を感じるが、運転の不安や家族の勧めで免許を返納したという人が大半を占めています。
- 免許返納後の外出手段は、徒歩、自転車が特に多く、次いで、自動車（送迎）、タクシー、市内循環バスが多くなっています。
- 充実が望まれる公共交通は、市内循環バスが最も多くなっています。

## 地域の概況より

### (人口等の状況)

- 人口はすでに減少に転じており、**少子・高齢化**が進んでいます。
- 一人暮らしの高齢者や、高齢者だけの世帯**は、市域に広く薄く分布しています。
- 人口減少、少子・高齢化は**今後も進む見通し**であり、自動車を運転しない高齢者等の**外出手段の確保**は、**今後ますます重要**になると考えられます。

### (施設の立地状況)

- 規模の大きい**店舗や医療施設等**は、概ね**鉄道駅周辺のエリア**に集まって立地しており、これらを利用するには、**市内での交通手段が必要**な状況です。

### (市民の移動の状況)

- 市民の多くは**市外へ通勤・通学**しています。現状では、**自動車（マイカー等）で通う人が特に多く、鉄道も一定の利用**がありますが、バスの利用は少ないのが現状です。

### (観光の状況)

- 桜まつり等で本市に多くの観光客が訪れますが、**来訪手段は自動車（マイカー等）が中心**となっており、駐車場周辺で混雑が生じています。

### (その他)

- 高齢ドライバーの免許返納が社会的な課題になるなか、本市の**高齢者の多くが免許**を保有しています。
- その他、自動車中心の外出スタイルとなっていることで、地球環境面や歩かないことによる健康面、まちなかの賑わい等への悪影響が生じることも危惧されます。

## 公共交通の概況より

### (公共交通のネットワーク)

- 本市の公共交通ネットワークは、**鉄道、路線バス、市内循環バス、タクシー**等で構成されており、概ね**市内をカバー**しています。バス、タクシーは**駅に発着**し、鉄道と乗り継ぐことで**県内他都市や東京方面に移動**することができ、ネットワークとしては概成しています。

### (公共交通の利用状況、運営状況)

- 鉄道、路線バス、タクシー**の利用客数はコロナ禍以前からすでに**微減傾向**にあり、**コロナ禍で大きく落ち込み**ました。
- 市内循環バス**は、**利用客数がきわめて少ない**のが現状です。
- バス、タクシーの**運行事業者**は、全国的な**乗務員不足・高齢化が深刻**となっており、きわめて厳しい運営状況にあります。

## 今後の取り組みに向けた着眼点

---

- 高齢化の進展をみすえ、市内の外出手段を確保することが必要。
  - 厳しい運営状況で、人口減少も見込まれる中、将来にわたり、公共交通を持続していくことが必要。
  - 大幅な充実等は難しいが、外出の利便性を確保する方策の可能性を模索することが必要。
  - 全体として、「わかりやすさ」を充実することが必要。
  - 乗り継ぎの拠点となる場所の「待ち環境」を充実することが必要。
  - 少しずつでも、自動車中心の外出スタイルの見直し、公共交通への意識の醸成に取り組むことが必要。
  - 観光・まちの賑わい、福祉、地球環境、健康、交通安全など、多様な分野との連携を模索することも必要。
-